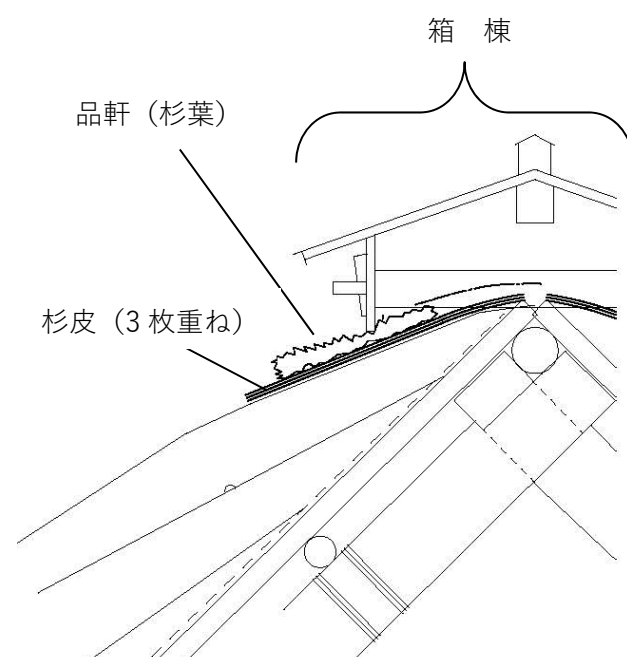


我妻家住宅の茅葺の特徴について



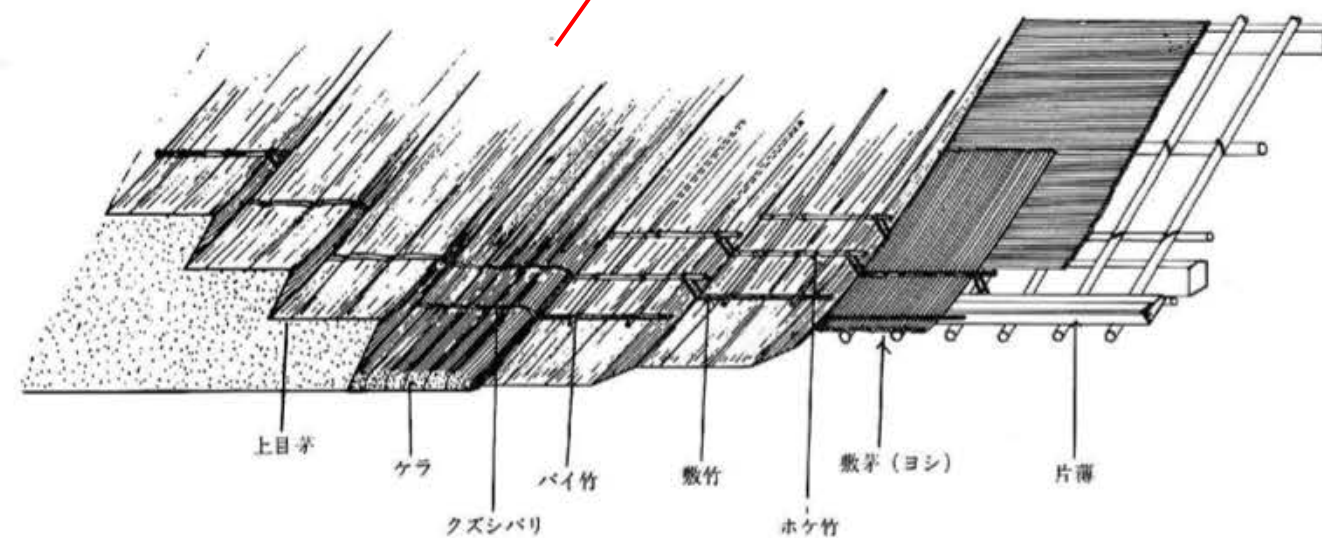
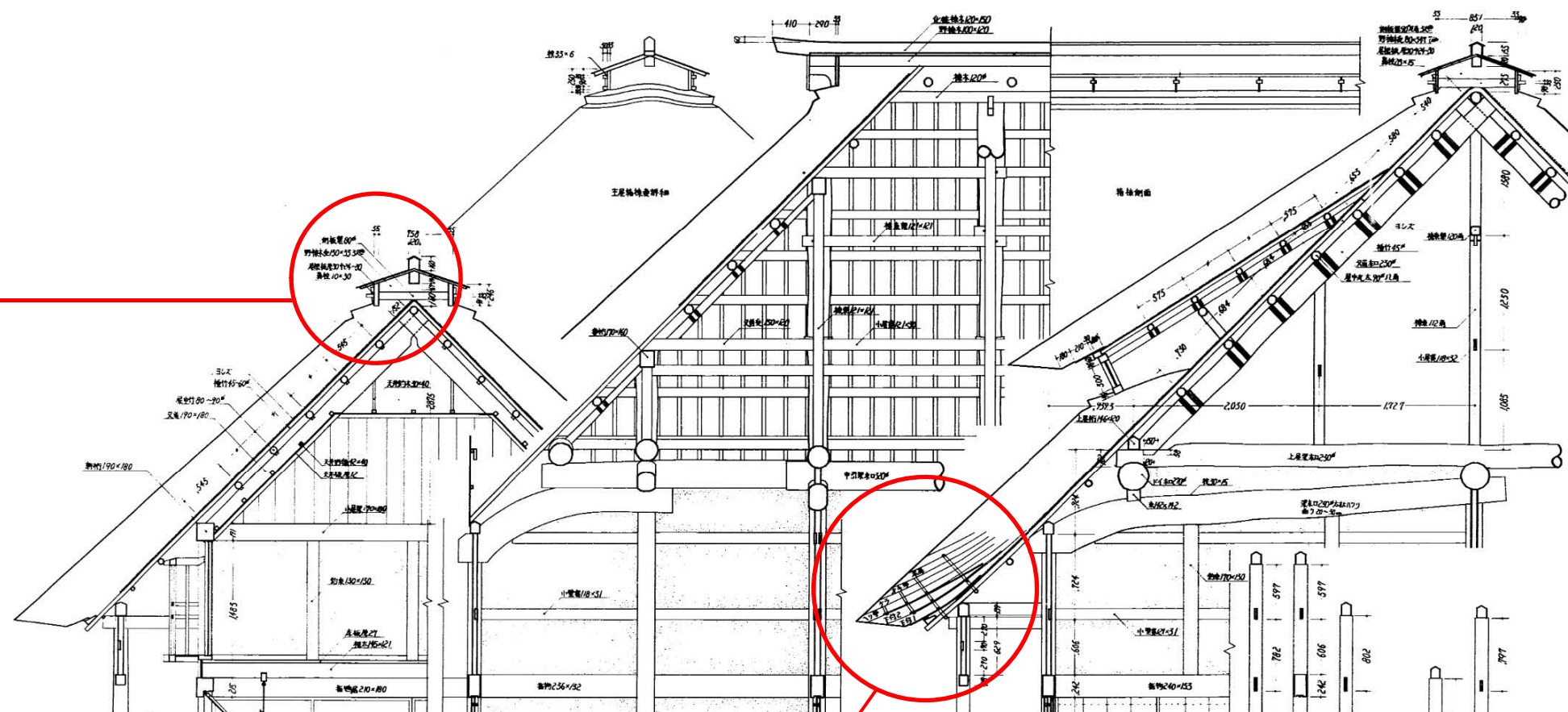
特徴1：箱棟と杉葉の品軒

東北地方の茅葺民家は芝棟が多い。我妻家も当初（宝暦3年、1753）には、芝棟やスグシ棟であったようである。

文化11年（1814）以降は箱棟形式に変更した。箱棟下の品軒にはスギ葉を使い、棟際の茅が痩せて抜けるのを防止する役割がある。



<昭和57年修理時の箱棟組立状況>



特徴2：軒先のつくりかた

垂木竹は径3cm程で、間隔20～25cm程度に割付け、母屋に釘打ち、屋中に縄摘みとする。軒先では茅負（片薄）を受けている。垂木竹上には葎簀を敷並べ、要所を縄留めにして下地にする。軒付広小舞上に良質のヨシをすぐり、広小舞前面より12cm出して敷並べて揃える。軒付に使う茅は、10cm～22cm程度に束ねたスグリ茅を敷並べ、一段毎に押針竹（ホケ竹）で締めつけ、要所でバイ竹にて釣込む。軒付を切り揃える角度については、ほぼ水平に刈込むのがこの地域の特徴のようである。